



倉吉北高図書館



2017.7.11

もうすぐ夏休み。この夏は、1冊読破してみませんか。

読書なんてつまらない、読書なんてしない。という人こそ、この夏は読書に挑戦してほしいと思います。ぜひ図書館にきて本を選んでみてください。

この夏おすすめ



「風に舞いあがるビニールシート」

森絵都著

大切な何かのために一生懸命生きる人たちのお話、6編を収録。

ケーキに人生を掛ける弥生は、大好きなケーキと仕事のギャップ、そして恋人との板挟みに悩む。(器を探して)クレームへの謝罪に向う途中の車内で先輩に運転を任せ、携帯で話し続ける20代の石津にギャップを感じている40代の野田。(ジェネレーションX)

「小説心が叫びたがってるんだ」

豊田美加著

言葉は人を傷つける…自分が言った言葉で家族がバラバラになった成瀬順は、それ以来お喋りを封印してしまった。それなのに、拓実、菜月、大樹とともに「地域ふれあい交流会」の実行委員に選ばれてしまった。優しいがゆえに本音を話さない拓実、過去の恋愛に悩む菜月、肘を壊して甲子園を諦めた大樹とそれぞれに悩みを抱えながら成長していく姿を描く。

「敗者たちの季節」 あさのあつこ著

甲子園を掛けた夏の大会で準優勝で終わり、直登の夏は終わった。そこへ優勝チームの甲子園辞退の知らせが入り、繰り上がりで甲子園出場が決まった。甲子園に行くことになったチーム、辞退したチーム、親友との約束を胸に指導に当たる監督、取材に来た記者の思い出…様々な人たちの想いを描く。

「給食のおばさん、ブータンへ行く!」

平澤さえ子著

ブータンの学校給食事情を改善すべく単身ブータンに乗り込んだ平澤さん。日本のようになんでも道具が揃っている状況の中で、料理をするのではなく、まな板も包丁もない中高生に料理を教えることに。

「いつかやろう」はずっと先になってしまう。だから「いまやろう」

「怖い絵」 中野京子著

十六世紀から二十世紀にかけて描かれた西洋の名画にみる恐怖を解説する。それは見ただけでわかる怖い絵もあれば、一見穏やかに見える絵に恐怖を忍ばせている怖い絵もある。その作者の背景や、描かれている人の物語がおどろ恐ろしい事もある。

人は多かれ少なかれ「怖いもの見たさ」を持っている。この本はあなたのその欲求を満たしてくれるかもしれない…

「似ている英語」

おかべたかし文・やまでたかし写真

例えば「時計」=「clock」「watch」

その違いは、置いたり、掛けたりして使う時計は「clock」、腕時計のように身につけて使う時計は「watch」です。このように同じ言葉でも少し意味が違ったり用途が違ったりと単語が変わる英語が集めてあります。写真で比較するので見てわかりやすく解説付きなので納得できます。英語が好きな人も苦手な人も。

新着図書



「海波家のつくも神」①②巻 淡路帆希著
「デート・ア・ライブ」16巻 橘公司著
「響け!ユーフォonium」①②③巻 武田綾乃著
「アウシュビッツの図書係」 アントニオ・G・イトゥルベ著
「オリンポスの神々と7人の英雄5 最後の航海」 リック・リオーダン著
「かがみの孤城」 辻村深月著
「じごくゆきっ」 桜庭一樹著
「真珠の耳飾りの少女」 トレイシー・シュヴァリエ著
「火星の人」 アンディ・ウィアー著
「福祉小六法」
「数学技能検定過去問題集」準1級～4級
「ナビラとマララ 対テロ戦争に巻き込まれた二人の少女」 宮田律著
「読みたい心に火をつけろ!」 木下通子著
「友だち幻想」 菅野仁著
「日本の統計 2017」 総務省統計局
「日本国勢図会 2017/18」
「人と出会う場所」 小松義夫写真・文
「28DAYS 運命をかえた黒人たち」 チャールズ・R.スミス・ジュニア作
「徳島・香川発 知得流儀シメイ」 徳島文理大学
「あるかしら書店」 ヨシタケシンスケ著
「面白いほど宇宙がわかる15の言の葉」 渡部潤一著



本の返却 忘れずに

返却し忘れた本がありませんか?

夏休みになる前に、一度返却をお願いします。予約がなければ、引き続き借りることができますので、手続きをしてください。

また、来週には学級文庫も回収します。もし手元に学級文庫の本を持っている人があれば、文庫に返却をお願いしてください。
生徒みんなの本です。失くさないように大事に扱ってください。



ぼくがここに
 まど・みちお
 ぼくがここに
 いるとき
 ほかの
 いろんなものも
 ぼくに
 かさなつて
 ここに
 いることは
 できない
 もしも
 ゾウが
 ここに
 いるならば
 そのゾウだけ
 マメが
 いるならば
 その一つぶの
 マメだけ
 しか
 ここに
 いることは
 できない
 ああ
 このちきゅうの
 うえでは
 こんなに
 だいに
 まもられて
 いるのだ
 どんなもの
 が
 どんなどころに
 いるときにも
 その「いること」こそが
 なにも
 まして
 すばらしいこと
 として

「あるかしら書店」ヨシタケシンスケ作

「こんな本あるかしら?」そう言って、この書店をお客さんが訪ねてきます。「ちょっとめずらしい本」や「本にまつわる仕事の本」や「本そのものについて」など、変わった本をたくさん紹介してくれます。ただ、ないのは・・・ヨシタケシンスケの楽しい世界を独特なイラスト共に楽しんでください。